令和元年度　第１回　千葉市生涯学習審議会議事録

１　**日時**　令和元年８月９日（金）
　　午後２時００分から午後３時３０分まで

２　**場所**　千葉ポートサイドタワー１２階　第１会議室

３　**出席者**
（１）委員
　　岩切会長、菊池副会長、網野委員、綾部委員、伊藤（節）委員、
　　伊藤（美）委員、岩崎委員、大井委員、小川委員、金田委員、河野委員、
　　武委員、廣﨑委員
（２）事務局
　　潮見生涯学習部長、安部中央図書館長、中島生涯学習振興課長、
　　滝田文化財課長、君塚生涯学習振興課放課後子ども対策担当課長、
　　八斗生涯学習振興課統括管理主事、土肥生涯学習振興課長補佐、
　　三橋生涯学習振興課管理主事、野中管理班主査、
　　柴崎生涯学習班主査、藤山放課後子ども対策班主査、
　　大西管理班主任主事

４　**議題**
　「第５次千葉市生涯学習推進計画」の進捗状況について

５　**議事概要**
　「第５次千葉市生涯学習推進計画」の進捗状況について、事務局が説明し、質疑応答を行った。

６　**会議経過**
　議事に先立ち、事務局から資料の確認、会議の公開、議事録の承認方法、会議の成立、新任委員の紹介、職員紹介を行った。

○（岩切会長）
　それでは、これから議事を始めさせていただきます。「第５次千葉市生涯学習推進計画」の進捗状況について、事務局より説明をお願いいたします。

○（中島生涯学習振興課長）
　生涯学習振興課の中島でございます。
　これから、生涯学習推進計画の進捗状況について、ご説明させていただきます。
　お配りをいたしました、資料１と参考資料をお手元にご準備ください。
　「第５次千葉市生涯学習推進計画」は、平成28年度から令和３年度までの６年間を計画期間とし、市民の生涯学習を推進するために策定された計画でございます。過去２年間の実績を踏まえ、平成30年度に計画の見直しを行いました。中間見直しの概要につきましては、後ほど、資料１の２、３ページをご参照ください。
　それでは、参考資料をお願いいたします。
　はじめに、成果指標の達成状況です。成果指標は、施策の成果を把握するため、６年間に目指していく数値目標の項目と水準を示したものになります。
　評価の基準は、１ページ最上部の表の達成状況欄に「◎・○・×」と記載しておりますが、平成30年度末の状況を達成度合いに応じて、令和３年度の最終目標以上の「◎」、平成 30 年度の中間目標以上の「○」、中間目標未満の「×」の３つの区分で示しています。
　成果指標10項目のうち２項目で平成30年度末現状値が最終目標以上となり、一方で７項目が中間目標を下回っています。
　参考資料には「◎・×」の９項目を掲載しておりますが、今回は中間目標を下回った７項目について行わせていただきます。
　「施策１－１　生涯学習の普及啓発」のうち、「指標１　生涯学習に関心のある市民の割合」については、平成30年度の実績は76.3％で中間目標を下回っているため、達成状況は「×」となっております。今後は、市民ニーズに応えた事業を実施するとともに、SNSや情報誌やチラシ等の情報発信を工夫し、学習のきっかけづくりにつなげ、生涯学習に関心のある市民の割合が増えるよう努めてまいります。
　「指標２　生涯学習に関する情報が充実していると感じる市民の割合」については、平成30年度の実績は24.5％で、達成状況は「×」となっております。今後は、先程の説明と重複をしますが、SNSやチラシ等、様々な手法を活用した情報発信の充実に努めてまいります。
　続きまして、「施策１－２　学習環境の整備」のうち、「指標３　市の生涯学習施設が５年前よりも利用しやすくなったと考える市民の割合」については、平成30年度の実績は53.3％で、達成状況は「×」となっております。今後は、公民館の修繕等を計画的に実施し、利用しやすい環境づくりに努めてまいります。

「指標４　生涯学習施設を年 1 回以上利用したことのある市民の割合」については、平成 30 年度の実績は 68.0％で、達成状況は「×」となっております。今後は、先程の「指標１　生涯学習に関心のある市民の割合」での対応策と重なる部分もございますが、様々な事業を実施するとともに、SNS や情報誌等情報発信に工夫を重ねて、学習のきっかけづくり、生涯学習施設の利用につながるよう努めてまいります。

２ページをお開きください。

「施策２－２　市民ニーズに対応した学習機会の提供」のうち、「指標６　公民館の講座の参加者の満足度」については、平成 30 年度の実績は 98.4％で、達成状況は「×」となっております。公民館が実施した講座数は前年度より 185 回増え、972 講座となりましたが、満足度は中間目標には届かず、98.4%となりました。

「施策３－１　地域の担い手となる人材育成」のうち、「指標８　市民のボランティア活動・地域活動への参加状況」については、平成 30 年度の実績は 16.7％で、達成状況は「×」となっております。今後は、市民ニーズを踏まえボランティアやリーダー育成講座の充実を図るとともに、ボランティア等の活動についての幅広い周知や活動場所の発掘等、学習成果を地域に還元するしくみづくりに取り組んでまいります。

「施策３－２　学習成果の活用機会の提供」のうち「指標９　年２回以上学習成果を地域に還元する団体の割合」については、平成 30 年度の実績は 67.6％で、達成状況は「×」となっております。今後は、学習成果を発表するだけでなく、地域に還元することの必要性をアピールして、取り組む団体を増やすようきめ細やかな支援に努めてまいります。

３ページをお願いいたします。アクションプランの進捗状況をご説明いたします。

アクションプランは、計画の目標を達成するための行動計画になります。評価の基準は、３ページ最上部の表の進捗状況の欄に「達成・順調・遅れ・休止・中止」と記載しておりますが、平成 30 年度末の状況をこの５つの区分で示しております。アクションプランでは 41 の事業が「達成・順調」と概ね計画通りに進捗している一方で、13 の事業では「遅れ」が生じており、２つの事業については「休止」をしております。

参考資料には「達成」の 11 事業、「遅れ」の 13 事業を掲載しておりますが、今回は、「遅れ」の 13 事業について説明いたします。

「施策１－２　学習環境の整備」のうち、「１　生涯学習施設等の利用環境の充実」については、１行目に「生涯学習センターの施設稼働率」、２行目に「公民館の施設稼働率」を記載しております。生涯学習センターの進捗状況は「達

成」、公民館は「遅れ」となっています。公民館の稼働率が伸び悩んでいる主な原因として、利用者の高齢化による活動団体の減少が考えられます。施設稼働率を向上させるため、公民館の修繕等を計画的に実施するとともに、利用環境の充実を図り、利用団体の支援や広報に取り組んでまいります。

「２　図書館サービスの向上」については、１行目に「地区図書館の開館時間の拡大」、２行目に「分館における休日開館の実施」について記載しており、ともに「遅れ」となっております。今後は、現在策定中の「新たな図書館計画」の中で、方策について検討してまいります。

４ページをお願いいたします。

「施策２－１　郷土への愛着を深める学習機会の提供」のうち、「２　文化財の保存・活用の推進」については、「ゆかりの家・いなげの改修」について記載しております。今年度、電気整備工事を予定しておりますが、実施時期が遅れたことから中間目標からは「遅れ」となっております。

続きまして、５ページをお願いいたします。

「施策２－２　市民ニーズに対応した学習機会の提供」のうち、「６　未来の科学者育成プログラムの充実」は、「未来の科学者育成プログラムの実施」について記載しております。こちらはジュニア講座受講者数になりますが、目標に達しなかったため、進捗状況は「遅れ」となっております。今年度は、年度当初から市内公立小学校５、６年生全員にチラシを配付し周知を図るとともに、電子申請を導入し、申込のしやすさを工夫しております。また、新規講座を立ち上げる等、内容の充実にも取り組んでいるところでございます。

続きまして、「８　放課後子ども教室の推進」は、放課後子ども教室の「実施日数」について記載しておりますが、平成30年度末の時点では、従来型が１校当たり17.9日、活動支援型が25.9日であり、進捗状況は「遅れ」となっております。従来型の実施日数が伸び悩む理由として、協力員等の担い手が不足する中、安全管理やプログラム開発等の地域への負担が大きいことが考えられますが、活動支援を継続し、実施日数の増加を図ってまいります。

「９　子ども読書活動の推進」については、１、２行目に「読書習慣のある児童生徒の割合」を記載しております。１行目が小学５年生、２行目が中学２年生の割合ですが、ともに「遅れ」となっております。３、４行目に「１か月間に読んだ本が０冊の児童生徒の割合」記載しておりますが、３行目が小学生、４行目が中学生で、ともに「達成」となっております。今後は、デザインを変更した「どくしょてちょう」を学校等で活用して、子どもの読書習慣の形成を図ってまいります。また、学校に出向いてのお話会やブックトーク、職場体験の受け入れや団体貸出等学校との連携を強め、子どもたちが読書に親しむきっかけづくりにつなげてまいります。

「11　家庭教育支援事業の実施」については、「『子育てママのおしゃべりタイム』の実施館数」を記載しております。こちらは、公民館での実施館数になりますが、平成 30 年度は 22 館で、進捗状況は「遅れ」となっております。引き続き、人材確保等実施体制の強化を図りながら、地域の子育て世代のニーズに応じて、実施回数の増加に努めます。

６ページをお願いいたします。

「施策３－１　地域の担い手となる人材育成」のうち、「１　団体・グループ活動のリーダーの養成・育成」については、「指導者養成研修の延受講者数」を記載しておりますが、平成 30 年度は 347 人で、進捗状況は「遅れ」となっております。今後は、公民館と連携して、ニーズに応えられるよう講座の充実を図るとともに、参加しやすいよう日程や広報の工夫に努めてまいります。

「２　ボランティアの育成」については、「ちば生涯学習ボランティアセンターの登録者数」を記載しておりますが、平成 30 年度末は 1,743 人で、進捗状況は「遅れ」となっております。引き続き、合同説明会で、他の施設・団体のボランティアとの連携・協働を図るとともに、ボランティアセンターの広報を充実することで登録者数を増加できるよう支援してまいります。

「３　家庭教育支援事業の実施」については、１行目が「家庭教育支援チーム数」、２行目が「子育てサポーター人数」を記載しております。平成 30 年度の家庭教育支援チームは２チーム、子育てサポーターは 35 人で、進捗状況は「遅れ」となっております。人材不足が課題ですので、公民館や学校の協力を得て、子育てサポーターや青少年育成委員等に呼びかけるとともに、家庭教育支援チームが開催するイベントについても PR に努め、多くの方に参加いただけるよう働きかけてまいります。

個別の説明は以上となります。

平成 30 年度は生涯学習推進計画の中間年度に当たるため、３年間の確認と評価を行いました。大変申し訳ございませんが、参考資料の１ページにお戻りください。

「１　成果指標の達成状況」の「（１）達成状況の割合」について、「◎・○」があわせて 30%、「×」が 70%を占めており、大きな課題があると考えております。なかでも、「１　学習活動のきっかけの提供」については、４項目とも「×」となっており、生涯学習の意義に対する理解度や生涯学習施設の認知度に課題があること、また、「３　学びを活かしたコミュニティづくり」については３項目中２項目が「×」となっており、学習成果の地域への還元が進んでいないことが浮き彫りになったと考えられます。

一方で「２　多様な学習機会の提供」については、３項目のうち２項目の達成度が高く、生涯学習施設における事業の取組が順調であることがわかります。

これらについては、現在の生涯学習施設の利用者に向けたさらなる情報提供の充実に加え、新たな広報手段について検討を行う必要があり、学習成果の還元につきましては、要因を探るとともに、地域の中核となる公民館がコーディネーターとなり、利用者を支援する役割を担ったうえで、専門的な人材の育成や地域連携の強化を進めていく必要があると考えます。

３ページをお願いいたします。

「２　アクションプランの進捗状況」の「（１）進捗状況の割合」につきましては、「達成・順調」のアクションプランが約７割となっております。引き続き各プランの実施に取り組みながら、遅れの出ているものについては原因を分析しまして、達成に向けた取組を早期に行っていく必要があると考えます。

説明は以上でございます。

補足となりますが、こちらの進捗状況等につきましては、千葉市教育委員会事務点検・評価の一部として掲載される予定です。委員の皆様方からご意見を頂戴いたしまして、今後の事業推進等に反映していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○（岩切会長）

中間見直しを基に、平成 30 年度末の実績の進捗状況をご報告いただいたということでよろしいですね。

参考資料ということで、集約したものでまとめてご報告いただいたのですが、この資料で皆様からすぐにご意見を伺うのは難しいと思いますので、進捗状況の冊子を見ながらご意見を伺おうと思います。資料１をご覧ください。参考資料とあわせてご覧いただければと思います。

それでは、進捗状況の４ページから、「１　学習活動のきっかけの提供」、こちらからご意見をいただきたいと思います。順次見てまいりますが、後ほど全体を通して伺う時間を設けますので、よろしくお願いいたします。

最初に「１－１　生涯学習の普及啓発」について、委員の皆さんからご質問やご意見はございますか。

（意見等特になし）

よろしいですか。

それでは８ページ、「１－２　学習環境の整備」について、いかがですか。

○（伊藤（節）委員）

９ページに SNS の話が出ていますが、具体的にどんなことをなさっています

か。

○（中島生涯学習振興課長）
一部の公民館において、Twitter や Facebook を使って情報提供を行っております。稲毛区や他区の一部の公民館におきましては、公民館の前に掲示板を設置し、そちらを活用した情報提供をしております。

○（伊藤（節）委員）
先程ご説明にもありましたが、子育てママのイベントがあまりうまくいっていないということで、子育て世代のニーズをどのようにとらえているのか、知りたいのですけれど。

○（中島生涯学習振興課長）
講座受講後のアンケート実施、公民館ごとの懇談会や区ごとの運営審議会を開催する等して皆様から意見を頂戴し、ニーズの把握に努めているところでございます。

○（伊藤（節）委員）
こういうニーズがあった、というのはありますか。

○（中島生涯学習振興課長）
運営審議会での話ですが、公民館の稼働率や年齢層の問題について皆様意識を高く持っており、課題としてとらえているところでございます。

○（伊藤（節）委員）
公民館の各サークルのリストを見ますと、若者に魅力的なものは少ないですよね。若者の意見を聞きながら新しいイベントや講座を作り出していく、そういうことを検討してほしいなと。

○（中島生涯学習振興課長）
すべての公民館ではないのですが、例えば小さな子ども向けの救命講習を開催し、子育て世帯を呼び込む取組を行っている館もあります。今回のご意見をほかの館にも広げていく等、情報共有を行い、課題について把握していきたいと思います。

○（伊藤（節）委員）
　プロの意見を聞いてほしいと思います。音楽等、いろんな方が地域にいらっしゃいます。魅力的なことをやれば子育て中の方の気晴らしにもなるし、おもしろいなと。若者にとって魅力的なことはいくつもあるような気がします。

○（中島生涯学習振興課長）
　ありがとうございます。様々な方向から対策を考えていかなくてはならないので、ご意見を参考にさせていただき、取り組んでまいりたいと思います。

○（潮見生涯学習部長）
　公民館で一番課題となっていることは高齢化であり、まるでお年寄りのための施設のような感じになっていることです。公民館がどこにあるかわからないという市民も多いので、炎天下の夏休みに空いている部屋を子どもたちに開放して公民館に来てもらう、朝市を開催して市民に来てもらう等、まずは公民館に足を運んでもらうことが必要と考えます。
　各公民館は地域性があるので、それぞれどうやったら稼働率が上げられるだろうかとアンテナを立てているところですが、一朝一夕に結果が出るようなものではないので、プロを呼ぶということも含めて、公民館に足を運んでもらい、身近になってもらうということをできるだけ進めていきたいと思います。

○（武委員）
　生涯学習センターの掲示板のあり方についてですが、掲示物に差をつけていないと思います。千葉市の資源である加曽利貝塚や千葉氏等を重点的に宣伝するものについては、特別コーナーを用意する等の展示ができないかなと思います。同好会的な掲示と一緒になってしまっていて、なかなか探すのが難しい。千葉市の資源をPRする場合は皆さんが認知できるように、考えてほしいなと思います。

○（中島生涯学習振興課長）
　情報がわかりやすく伝わるよう、考えてまいります。

○（武委員）
　SNSをやらない高齢者は市政だよりをよく見ていると思います。紙面に記載されているケースもありますが、センターに来られる方がよくわかるように、特別コーナーがあってもいいのではないかと思います。

○（廣﨑委員）
　子育て支援の話になりますが、保健福祉センターが子育て支援や様々な講座を実施していると思うのですが、連携は可能でしょうか。

○（君塚生涯学習振興課放課後子ども対策担当課長）
　子育て支援との連携ですが、子育てサポーター、おしゃべりタイムと保健福祉センターの事業をリンクさせる、社会福祉協議会と合同で相談会を開催するということを、少しずつ始めております。同じ日に同時に事業を開催しているといった、不都合な部分もございますので、情報交換をしっかり行い、リンクできるところは一緒にやってみる等、特徴を持たせながら事業を進めていきたいと思います。

○（岩切会長）
　一つ質問してよいですか。
　11 ページに記載している「どこでもこどもカフェ事業」とは、どういう事業ですか。

○（菊池副会長）
　こども企画課において、放課後の子どもの居場所として、「こどもカフェ」のモデル事業を実施してきました。そのモデル事業が終わり、今年度から、条件等はありますが、どこでもこどもカフェが開催できる、ということで「どこでもこどもカフェ」という事業が始まったと把握しています。

○（岩切会長）
　ありがとうございます。
　それでは、続いて 14 ページになりますが、「２　多様な学習機会の確保」のうち、「２－１　郷土への愛着を深める学習機会の提供」について、ここはいかがでしょうか。

　（意見等特になし）

　それでは、17 ページの「２－２　市民ニーズに対応した学習機会の提供」について、いかがでしょうか。

○（金田委員）
　公民館が平成 30 年度から指定管理者制度になりましたが、その辺の影響はあ

りますか。運営面や満足度の向上であるとか、変化というものは出てきていますか。

○（中島生涯学習振興課長）
直営時代と比べますと、公民館の主催事業が 185 事業増ということで、大幅に増えました。事業数が増えたということは、講師の皆様にお支払いする謝礼等も増えており、十分に事業を執行しているというところがございます。
また、予算の再配分をしましたので、古い公民館が多い中、修繕も積極的に実施し、また会議室の重い机を軽いものに買い替える等も行っております。
利用されている皆様方からは、公民館が明るくなった、使いやすくなったという意見を頂戴しているところでございます。

○（金田委員）
公民館のサービス機能といいますか、ハードもそうなのですが、ソフト面でも、行かれる方が今まで以上に行きやすくなった、使いやすくなった等、そういったものが公民館の指定管理者制度導入で期待していたところだったのですが、成果が出ているということでよいですか。

○（中島生涯学習振興課長）
先程ご説明した SNS についても、指定管理者制度導入後に始まったものになりますし、公民館の案内表示も改善されており、着実によくなったというご意見もお聞きしているところでございます。

○（金田委員）
そういう声がさらに高まるように努力していただきたいなと思います。

○（綾部委員）
科学都市ちばについてですが、何をもって科学都市ちばを名乗り、どのようなことを具体的に行っているのか、教えてください。成果指標を見ますと、中間目標は達成できているのですが、他の事業と比べると数値が低めと感じますので、背景等も教えていただければと思います。

○（八斗生涯学習振興課統括管理主事）
科学都市ちばについては、平成 23 年 6 月に基本方針を打ち立て、子どもから大人まですべての市民に科学技術を身近に感じてもらう環境を創造する事業を行っています。具体的には科学館の運営や未来の科学者育成プログラムといっ

た事業を行っております。未来の科学者育成プログラムは中高校生を対象に実施しておりますが、今年度で８年目を迎え、現在市内で５９名の中高校生が、千葉大学や放射線医学総合研究所のプログラム等を受講しているところでございます。そして、それが好評でございましたので、小学生を対象としたジュニア講座も行っているところでございます。

成果指標につきましては、平成 27 年度末から順調にあがってきたところなのですが、平成 30 年度は下がってしまいました。科学フェスタといったイベントや科学館の事業の充実を図って、科学都市ちばの認知度を上げていきたいと考えております。

○（綾部委員）

科学都市ちばという言葉はあまり見かけない標語ですが、より PR する試みはありますか。

○（八斗生涯学習振興課統括管理主事）

10 月に実施する科学フェスタ等でこの言葉の認知度を上げていきたいと思います。

○（網野委員）

読書習慣については、学校でも一生懸命取り組んでいかなくてはならないと考えているのですが、今後の取組の中で、特に学校との連携の中で、こういったことを進めてほしいということはありますか。

○（安部中央図書館長）

本を読む習慣とは、情操教育や子どもの健全育成のために大変重要なことだと考えております。各学校には学校図書館指導員が配置され、生徒の指導に当たっているところですけれども、学校図書館指導員と私ども公立図書館の職員との連携をさらに図っていきたいと考えております。

今年度、読書手帳のデザインの仕様変更を実施しましたが、加曽利貝塚のかそりーぬを表紙にそえたものとなっております。子どもたちに親しんでもらえるものということで、現在幼稚園と小学校１、４年生に配っているところですが、これだけではなく、さらに多くの子供たちに配って普及していきたいということで、来年度からすべての学年に配りたいと考えております。

また、学校図書館指導員の方は学校に常駐する形になります。学校図書館にある本の冊数には限度があります。一方で図書館の方にはたくさん本がありますので、図書館の本をうまく学校図書館に届けられるしくみ、これも今後考え

ていきたいと思います。

○（伊藤（美）委員）
　放課後子ども教室の推進について、従来型と活動支援型がありますが、具体的にどのようなことをされているのですか。子ども教室に参加したことでの前向きな事柄はありますか。

○（君塚生涯学習振興課放課後子ども対策担当課長）
　従来型と申しますのは、地域の方だけでやっていただくものになります。基本的に、放課後子ども教室は地域の子どもは地域で育てるという視点に立っており、地域の皆様方、保護者の方、地域で活動している様々な方に実行委員会を組織していただき、運営しているものでございます。しかし、ノウハウがうまく引き継ぐことができなかったり、運営をしている方々の高齢化が進んだり、働きに出る保護者が増えたりということで、人材的な部分で人の手配がつかなくなっているという課題があります。
　そのような状況から、課題を抱えている学校については、委託事業者を間に挟んで、活動の充実を図ろうと考え、活動支援型という事業を実施しています。今年度は 17 校で実施しております。放課後子ども教室の活動に困っている学校に対し、民間業者、NPO になりますが、プログラムの提供や運営のノウハウの教授といった、活動支援を行っております。そういった事業を実施することによって、通常の従来型の学校よりも実施日数は増えております。
　子どもたちの変化については、保護者からの視点になりますが、様々なプログラムを展開していくことによって、興味関心のあるものが増えたというご意見をいただいております。また、異学年での交流があることから、友達が増えたというご意見もいただいております。

○（伊藤（美）委員）
　プログラムとは、文化的なものや運動的なものですか。

○（君塚生涯学習振興課放課後子ども対策担当課長）
　学校によって異なります。

○（菊池副会長）
　放課後子ども教室は、地域の子どもは地域で育てるという方針で行われているとのことですけれど、支援型を導入することで、地域で育ているということについて、どう工夫していますか。

○（君塚生涯学習振興課放課後子ども対策担当課長）
　活動支援を行っている NPO は、地域の中から協力者を見つけるということを行っております。講師に招くといったことも行っております。

○（廣﨑委員）
　それについて、ボランティアセンターには様々な講師がおりますので、ぜひ活用していただきたいと思います。
　放課後子ども教室と子どもルームの実施時間、それがうまく分かれていないような気がします。その辺はいかがでしょうか。放課後子ども教室で活動していても、子どもルームの時間になると、活動を中断される形で子どもルームに行くことになるので、その辺の切り分けと言いますか、ご検討いただけないでしょうか。

○（君塚生涯学習振興課放課後子ども対策担当課長）
　ボランティアセンターについては、各放課後子ども教室の実行委員に周知しておりまして、少しずつ利用する実行委員会が増えてきていると考えております。
　子どもルームとの関係ですが、実行委員会の方の手が薄くなっていることから、保護者の方が年間１回でもお手伝いしてくれれば放課後子ども教室に参加できるといった条件を付けている学校がございます。そういう点では、子どもルームに通っている子どもが放課後子ども教室に参加できないような現状があります。
　一方で、子どもルームと放課後子ども教室の実行委員会が連携協力し、実施している学校もございます。開催方法等を各実行委員会に紹介する等、すべての子どもが参加できるようなやり方等を考えていきたいと思います。

○（岩切会長）
　23 ページまで見ていただいたのですけれども、続いて 24 ページに進みたいと思います。「３　学びを活かしたコミュニティづくり」のうち、「３－１　地域の担い手となる人材育成」について、中間見直し時にかなり意見が出たところと思いますが、いかがですか。

○（武委員）
　地域の中で、地域ケア会議というものがかなり行われるようになってきております。構成メンバーは、地域の自治会、社会福祉協議会の関係者、民生委員、あんしんケアセンターの方々ですが、地域の特定の問題について話し合うとい

う試みが、かなりのところで行われつつあります。ゴミ屋敷の問題や認知症の問題が増えてきておりますが、一か所で対応できないときに、様々な方が集まって、定期的に、地域の限られた具体的な問題について話をするという試みをどんどん行っています。公民館が、このような取組と高齢者に関わる学習機会の問題とをうまくリンクさせていくということが必要ではないかと思います。高齢者対象の講演会の設定等は、地域のできるところから始めればよいと思います。ぜひ考えてほしい。

○（中島生涯学習振興課長）
　高齢化は、現代的課題であり、差し迫っている問題ですので、頂戴しました意見も含めて、取り組んでまいりたいと思います。

○（武委員）
　関係者だけでなくて、一般の人も会議の傍聴に来てもらう。そうすると、公民館の機能が十分に活用できるようになると思います。

○（岩切会長）
　他はよろしいですか。
　それでは、27 ページの「３－２　学習成果の活用機会の提供」について、いかがでしょうか。

○（廣﨑委員）
　28 ページ記載の「４　ボランティアセンター等におけるコーディネートの実施」について、「順調」ということで 234 件となっています。一方で、25 ページ記載の「２　ボランティアの育成・ちば生涯学習ボランティアセンターの登録者の数」は 1,743 人、「遅れ」となっております。高齢化により、今まで活動してきた方ができなくなってきたということが多いと思うのですが、234 件というのは登録者数に対してどのくらいの割合になるのでしょうか。
　また、コーディネート数イコール活動実績ではないですよね。活動実績はもっと多いのかなと思います。一回コーディネートしていただいても、１回の活動では終わりませんが、その後何回活動してもコーディネート数は１回と数えられてしまうと思うのです。活動実績としてはもっと多くなるのではないかなと。
　一度コーディネーターをやっていただいて、来年、再来年と続けてお願いする場合は、再度コーディネートは行わないので、資料の取り方として、今後どういうような指針を取っていくものか、もっと実績が増えていく可能性がある

と思います。

○（中島生涯学習振興課長）
　ご意見の通り、一度コーディネートしますと、次回以降はその講師と直接やり取りをやらせていただいたりするので、数字が掴めない部分があり、この数字というのは１回目のものが多いと思います。
　今後の数字の取り方については検討していく部分があるかと思いますが、その先どこまで把握できるかということを含めて今後考えていきたいと思います。ボランティアの皆さんの数を見まして、この件数というのは、これ以上のものが裏に隠れているものではないか、ということは認識しています。

○（岩切会長）
　他はいかがですか。
　それでは 31 ページの「３－３　市民の参加・協働による学習活動の推進」について、いかがですか。

○（大井委員）
　32 ページの「４　学校支援地域本部やコミュニティ・スクール等の推進」ですが、学習支援ということで、読み聞かせや学習補助、中学校では放課後の学習支援に取り組んでいると聞いており、大変感謝しておるところです。順調ということですが、引き続きこの事業の拡充に努めていただけたらと思います。

（○岩切会長）
　よろしいですか。
　ここまで、順番にたどってまいりましたので、最初にご説明いただいた参考資料が見えるようになられたのではないかと思います。
　総まとめになりますので、こちらの方と参考資料をあわせてご覧ください。
　進捗状況について、全体を通して何かございますか。

○（岩崎委員）
　質問ですが、今回提示された進捗状況の目的について、これは今日の資料という理解でよいのか、それともこれは案であり、私たちがこの内容について意見することで修正が可能なのか、どちらでしょうか。

○（中島生涯学習振興課長）
　報告させていただいているところでございます。

○（岩崎委員）

わかりました。では、意見をよろしいでしょうか。

45 ページの考察のところですが、考察 1 段落目の成果指標について、中間目標に達していない項目が多いというお話がありました。成果指標とアクションプランの二つの大きな構造があると思うのですが、アクションプランについては、こういう対応をする、というように事務局で考えられており、それに対しての判断なので、こちらには評価の意味があると思います。

一方で成果指標は、成果指標自体が妥当かどうかというところがありまして、ここでは「◎・○・×」と評価すると決めたので、何個「×」があるということを言及するのは間違いではないと思うのですが、解釈をもう少し丁寧に行われた方がよいのではないかと思います。「×」が７割あるというところを振り返ると、例えば、「指標１　生涯学習に関心のある市民の割合」は 83.0%に満たないから「×」である。ただ、これを学校教育の場面に例示して考えれば、子どもに学習の関心のある割合を聞いたとして、８割以上学習に関心のあるという数値は、普通は出ないと思うのです。市民の中での性格特性に依存するような質問をして、８割に足らないから「×」というのは、妥当性に欠くかなと。

「指標２　生涯学習に関する情報が充実していると感じる市民の割合」というのも、生涯学習に関する情報を知っている人と知らない人で分かれるものですし、知っている人の中でまた充実しているしていないというのが分かれますので、これもどうかなと。

「指標３　市の生涯学習施設が５年前よりも利用しやすくなったと考える市民の割合」については、５年前よりも利用しやすくなったということの前提には、５年前に利用している人という前提があるわけですから、これもバイアスがかかった質問になります。

「指標６　公民館の講座の参加者の満足度」は、前提として講座を受けた人に聞いているので質問としては妥当ですが、それでも 98.4%も満足しているに「×」という評価が妥当かと。

そういうことを考えると、考察においてもう少しこの辺の事情を解釈して、これは「×」だけれども、いろんなバイアスがかかっていたり、限界がある中での「×」なので、を否定的に事務局で受け止めなくてもよいのかなというのが、私の意見です。

○（潮見生涯学習部長）

たしかにおっしゃる通りのところがありまして、行政も過去には何をやったか、何をやるかというアウトプットばかりが表面に出ており、その結果どうな

ったのかということが問われるようになってきました。その中で、成果指標を掲げて、それを上げるためにいろんな事業をやっていくんだと。

現状より上向いた目標を立てなければならないという使命がある中で、達成しなかった場合は曖昧に「△」と評価するわけにはいかないので、「×」以外に言いようがないということです。

しかし、内部的にはこの「×」を単純にダメだと悲観しているわけではないですが、反省すべき点はあるだろうと考えております。広報の問題であるとか、そういったことを真摯に受け止めて可能な限り「○」にしていく試みをアクションプランとして考えてやっていこうと、昨年度見直しを行ったわけです。

精一杯成果指標をあげるような事業に取り組みたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いします。

○（岩切会長）

成果指標については、インターネットモニターアンケートや WEB アンケート等、いろいろな経緯があって、数値としては難しいところがあるかと思いますが、考察を詳細に分析されたらよいというご指摘だと思います。

全体を通して他にございますか。

○（廣﨑委員）

美術館についてはこちらの計画には入っていませんが、それがどうしてなのか教えてください。また、科学館には、小学校が校外学習で行くことはあるのでしょうか。行くのであれば、全校の中でどのくらいの割合の学校が行けるのか、教えてください。

○（潮見生涯学習部長）

美術館の他にこの計画に入っていないのはスポーツ関係の施設になりますが、市長部局の所管であるということで外れている状況です。

科学館については、全小学校が必ず行っております。

○（廣﨑委員）

何年生ですか。

○（八斗生涯学習振興課統括管理主事）

主に４年生になります。それ以外にも５、６年生が行くこともあります。

○（廣﨑委員）
　所管が違うと伺ったのですが、美術館には学校は行ってらっしゃらないですよね。限られた少ない学校しか行けていないと思います。家庭の状況により美術館に行くことができない子どももいると思うので、市長部局と連携して、学校の授業としていけるようなことを考えていただきたいと思います。

○（潮見生涯学習部長）
　伝えます。

○（岩切会長）
　よろしいですか。
　それでは、進捗状況について、他にご意見等もないようですので、これで本日の議題を終了させていただきたいと思います。
　それでは以上で議事を終了したいと思います。進行を事務局にお返しいたします。

　議事後、委員からの活動報告、事務局からの事務連絡を行った。